



2024年 10月 17日 (木)

15:30 開場 (事前予約制・会場にてお布施をお気持ちで)

16:00～ ヘンデル オンブラマイフ

平井康三郎 平城山

久石譲 風のとおり道

カタルーニャ地方の民謡 鳥の歌

斎藤隆介 花さき山 朗読:羽村 郁子

菅野よう子 花は咲く

ドビュッシー 月の光

香月修 追憶の光と影 - ヴィオラとピアノのための -
神谷未夏還暦記念委嘱作品



(絵・Mathias Tanner)



(絵・Ryo Nakanishi)

会場 | 曹洞宗 白砂山 自元寺 - 山梨県北杜市白州町白須 1364 -

Viola | 神谷 未夏 | Mika Kamiya Tanner

東京に生まれ、4歳より鎌倉でピアノ、5歳より札幌でヴァイオリンを始める。再び戻った鎌倉での桐朋学園子どものための音楽教室を経て、桐朋女子高等学校音楽科にヴァイオリン科で入学、久保田良作氏に師事。桐朋学園大学在学中に小澤征爾氏の奨めでヴィオラに転科、江戸純子氏に師事。首席卒業後ドイツ・ケルン音大に留学、ライナー・モーク氏、アマデウスカルテットに師事し第一位で卒業。

パリでジェラルド・コセ氏、ピエール・アンリ・クセレブ氏に、シエナでユーリ・バシュメット氏に師事。ピール・ビエンヌ管弦楽団入団を機にスイスに移住。ソリスト・ドゥ・ジュネーブ、カンマーフィルハーモニー・ヴィンタートゥーア首席の他、スイスと日本のオーケストラやアンサンブルでも数々の客演を務める。パシオ弦楽四重奏団メンバー。フラウエンフェルト音楽学校弦楽科主任。

Piano | 小山 香織 | Kaori Koyama

長野市生まれ。3歳よりピアノをスズキメソッドにて始める。故鈴木慎一、片岡ハルコ氏に師事。信州大学教育学部附属長野中学校を卒業後、桐朋女子高等学校音楽科に進学。在学中第36回全日本学生音楽コンクール高校の部全国第一位を受賞。首席卒業後、桐朋学園大学音楽学部に進む。在学中秋山和慶指揮、桐朋学園オーケストラと共演。大学卒業後、ミュンヘン国立音楽大学に留学。故クラウス・シルデ氏に師事。マリア・カナルス国際コンクールディプロマ賞受賞。帰国後、日本演奏家

連盟主催にてリサイタル。ウィーン音楽コンクールインジャパンにおいて審査員満場一致にて第一位を受賞。併せてウィーン市長賞、ウィーン文部大臣賞、愛知県知事賞を受賞。ウィーンにて受賞者演奏会に出演。その後東京にてリサイタル、オーケストラとの共演、NHK・FM名曲リサイタルに出演するなど、幅広く活躍。現在は鎌倉に居を置き、「桐朋学園大学附属子どものための音楽教室長野教室」で後進の指導にあたる傍ら、ソロ・室内楽の演奏活動を行なっている。鎌倉音楽家協会会員。



南アルプスコネスコエコパーク登録10周年記念

自元寺文化 LABORATORY
第2回 チャリティーコンサート

神谷 未夏・小山 香織



香月修氏より「作品に寄せて」

自らの過去の記憶を辿っていくと、これまでに経験した様々な情景が走馬燈のように蘇ってくる場合があります。それは苦悩、後悔であったり、また一瞬の幸せを感じた時であったり、胸の内に秘められていたものがふと姿を見せるのです。

今回の作曲にあたり「ヴィオラ」という楽器が持つ音色等の特性を活かすためにどのような表現をすれば良いのか、と想いを巡らす中で、上記のようなイメージがごく自然に浮かび上がってきました。

第1部冒頭、フリギア調による重苦しい動機に誘い出されるようにヴィオラの独白で始まりますが、転調を重ねる中、さりげなく自己主張します。第2部では前の重苦しきからは解放されますが、陰影を感じさせるアンサンブルを想い描いて音を探しました。

最後に、この作品は神谷未夏さんの存在が無ければ生まれていなかったもので、彼女への心からの感謝の気持ちをこの場を借りてお伝えしたいと思います。



南アルプス
ユネスコエコパーク

自元寺は、冬至の日、甲斐駒ヶ岳の山頂に日が沈むことから1570年、この地に建立されたと伝わります。

人と自然の深い繋がりを、畏敬と信仰の念として今に伝える自元寺で、南アルプスコネスコエコパーク登録10周年を記念し自元寺文化ラボが第2回チャリティーコンサートを行います。

お気持ちでいただいたお布施はユネスコエコパークでの活動にその一部を寄付します。

Composer 作曲家 | 香月 修 | Osamu Katsuki

1948年佐賀生まれ。桐朋学園大学音楽学部作曲科卒業後、母校で後進の指導にあたり2015年退任。現在は同大学名誉教授。日本音楽コンクール作曲部門、長野県ピアノコンクールなどの審査員を歴任。主な作品に「クラリネット五重奏曲」・オペラ「わらしべ長者」(日本オペラ協会委嘱)・「弦楽四重奏曲」・「詩曲I(独奏ヴァ

イオリンのための)」・「詩曲II(二つのヴァイオリンとピアノのための)」・「詩曲III(ピアノ四重奏のための)」・「プレリュード・アリア・フィナーレ(ピアノ四重奏のための)」・「子供の四季(児童合唱とオーケストラのための)」・新国立劇場委嘱のオペラ「夜叉ヶ池」ピアノ曲集「つぐみの森の物語」等がある。



【自元寺文化ラボ】とは

お寺が地域のためにできることを、共に考え実行していくプラットフォームとして「自元寺文化ラボ」を2023年発足しました。

地域の有志とともに、これまでに茶会や演奏会、テラコヤ、禅料理教室などあらゆる世代が垣根なく学び、出会い、交流を生む場を作り出しています。場を設え、開き、人をつなぐ。

お寺が昔から担ってきたその歴史を、未来に開きたいと考えています。



自元寺庫裏耐震改修工事 「伽藍の胸襟を開き いま地域の変化に寄り添う」

京都大学建築学科100周年記念コンペ銀賞・日本空間デザイン賞2023 サステナブル空間賞
if design award 2024・日本建築学会 作品選集2024 新人賞 受賞



DESIGN
AWARD
2024

→
計
画
概
要
記
録
要



甲州街道の宿場町、台ヶ原宿。自元寺は1570年の建立以来地元へ寄り添い、檀信徒のための祈りの場として、また寺子屋や寄所として、長く地元で親しまれてきた。しかし地域のコミュニティのあり方は確実に変化し、地方のお寺を取り巻く状況はかつてないほど厳しい。

いま私たちは伽藍を街へ開く。唐破風の庇を本堂玄関へと移設することで本堂の格式を高め、対して庫裏は外壁を一部セットバックし庇を廻して誰も立寄りやすい佇まいを示す。本堂と一体的に使われてきた座敷は原型に近い形で残り、耐力壁コアを分散配置した残余の空間を、多様な活動を受けとめる器として外へ開く。お寺がその胸襟を開くことで、文化継承と転換の契機とし「空ノ間」と「色ノ間」がこの建築を象徴する。

唐破風を移設し新たに設えた庇の下の濡縁に人が集い談笑する。その様子を古からの山岳信仰の対象、甲斐駒ヶ岳の雄大な姿が見守っている。時に故人を悼み自らと向き合う場を、時に茶会や演奏会、テラコヤといったあらゆる世代が垣根なく学び、出会い、交流を生む場を、悠久の時の流れの中で地域の誰もが利用できる。このような繋がりの中で私たちは生きているということ、現代の佇まいとして、次の世代へ伝えたい。

建築は風景とともに育むことで、この世に一つしかない場所となる。この場所に明日の故郷を胸に人が集う限り、この美しい風景は忘れられることなく続いてゆくだろう。



主催：自元寺文化 LAB 実行委員会

写真：中道 淳 (Nacasa & Partners) ・ 砺波 周平 (トナミシュウヘイ写真事務所)

企画協力・デザイン：NOA 環境設計

協賛：ケルンコーヒー・大輪油店・巨麻石材・RENOI

後援：北杜市観光協会・山梨銘醸・金精軒製菓・シャルマンワイン

北杜市教育委員会

座席予約・問合せ先：自元寺文化 LAB 実行委員会 TEL：0551-35-2245

座席予約は →

こちらからも可能です

小学生以上の子供の参加歓迎します！

